



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 新型コロナウイルスとの共存・共生を見据えて

新型コロナウイルスのパンデミック（世界的流行）は、今や私たちの生活の一部となり、人々の価値観や社会経済活動に大きな変化をもたらしました。この1年半、私たちは多くの不自由に耐え、行動の自粛・マスク・消毒・三密回避などを実行してきましたが、いまだ出口の見えない状況であります。

島田市における陽性者が急激に増加した8月以降の第5波において、1週間当たりの陽性者数がピークに達したのは8月27日でした(104人)。その後は下がり続け、9月末現在、直近7日間の陽性者数は4人となっています。

ワクチン接種率を高めて重症化を防ぎ、治療薬を開発して、感染しても治療できる状況にすることが急務です。また、実際、2回接種していても感染する「ブレークスルー感染」は市内でも陽性者の1～2割に見られますが、重症化予防という意味でワクチンは高い効果がみとれます。

こうした中、島田市では、希望するすべての市民へのワクチン接種を10月末までに完了する見通しです。高齢者はすでに9割以上接種しましたが、接種対象者(12歳以上)全体では、9月末現在61.5%の接種率となっています。家庭内で幼いお子さんに感染させることを防ぐためにも、ワクチン接種をお勧めします。



高まる市民のワクチン接種率

第5波では、入院が必要な中等症Ⅱ以上の感染者でも、コロナ専用病床に空きがないため自宅療養を余儀なくされ、自宅で死亡が確認されるといった痛ましい事例が、全国で相次ぎ報道されました。このような事例は、地域の医療体制によって大きな差が出ます。感染症拠点病院である島田市立総合医療センターでは、志太榛原地域で入院が必要な感染者を確実に受け入れられるよう、感染拡大時にはコロナ病床を相当数増床しました。抗体カクテル療法も、早い段階から積極的に行っています。

また、市独自の取り組みとして、高齢者施設や学校・保育施設などで陽性者が出た場合、濃厚接触者と判定されなくても、接触の可能性があった方々に無償でPCR検査を実施し、感染拡大の防止に取り組んでいます。中部保健所と協力して、希望する自宅療養者への健康観察、パルスオキシメーターの貸与、5日分の食料品宅配など、自宅療養者のケアにも万全を期してまいりました。



食料品宅配の一例(1人・5日分)

緊急事態宣言発令中における夏休み明け学校再開については、多くの保護者から賛否両論のご意見をいただきました。島田市は、希望するご家庭にはリモート学習を認め、基本は通常授業としました。今後も感染拡大が確認された場合、直ちに一斉休校は行わず、各校ごとに休校や学年・学級閉鎖を行う方針でいます。登校に不安を感じ、保護者の判断で登校を見合わせる場合は、欠席扱いにはなりません。各校は、これまで同様に感染拡大防止対策を徹底し、感染リスクの高い活動などについては、やり方を変えたり、実施を見合わせたりしています。ご心配なことがあれば、学校または教育委員会へご相談ください。

政府は、ワクチン2回接種を条件に「ワクチン・検査パッケージ」を活用して、飲食店での営業時間・人数制限・酒の提供の制限緩和、県をまたぐ移動などの自粛要請の撤廃、イベント・部活動・課外活動など制限を緩和する方針を公表しました。3回目となる「ブースター接種」も実施の方向で検討されています。

これらの方針に加えて、当市も人々の行動様式や意識の変化を踏まえた、新たな施策に取り組んでいかなばなりません。「コロナとの共存・共生」(with コロナ)を前提に、経済社会活動やコミュニティ活動を回復しなければならないからです。市民の皆さまには新型コロナウイルスに対する正しい知識の入手とともに、新型コロナウイルスと共存する社会のあり方や自らの生活スタイルを考えていただきたいと思い、今月のテーマとしました。